

ゴマサバ (太平洋系群) ①



■ゴマサバ太平洋系群の現在の状況

ゴマサバは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋側に分布する群である。

図1 分布図

分布の中心は日本の太平洋側。産卵場は日本の太平洋南岸。

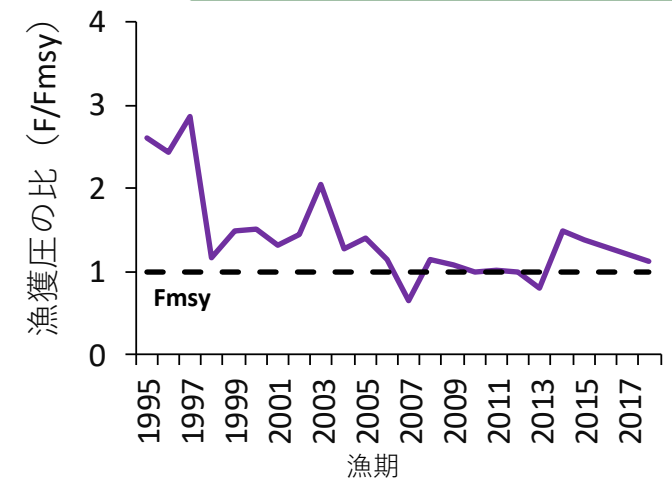
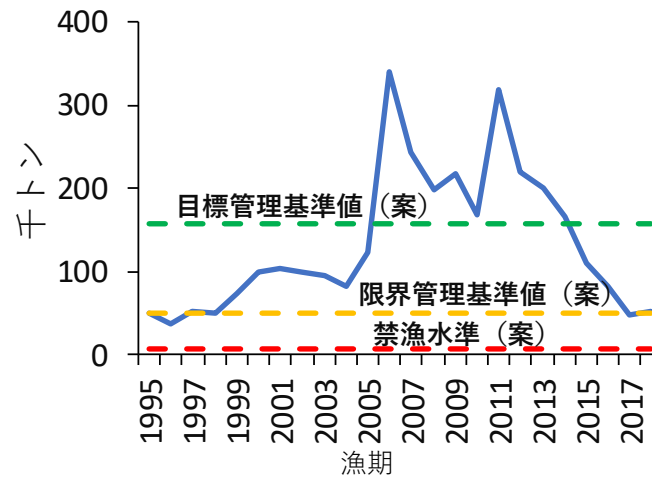
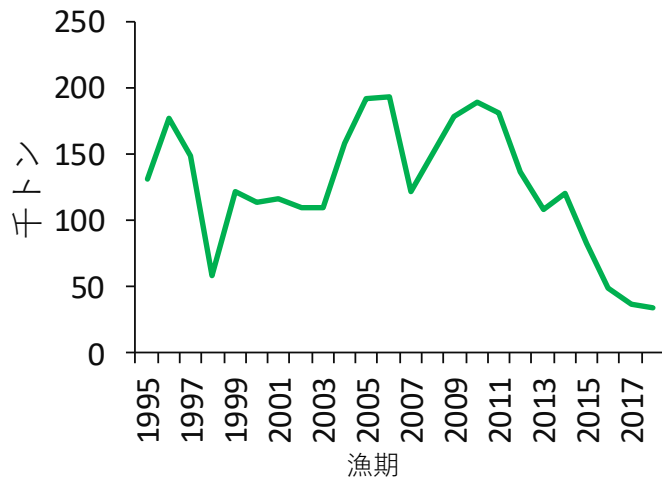


図2 漁獲量の推移

漁獲量は、2005～2011年漁期は高い水準で推移していたが、2012年漁期以降は減少傾向。2018年漁期の漁獲量は35千トンと低い水準。

図3 親魚量の推移

親魚量は、2012年漁期以降、減少傾向にあり、2018年漁期の親魚量は53千トン。

図4 漁獲の強さの推移

漁獲圧 (F) は、1998年漁期以降、横ばい傾向で推移。

ゴマサバ (太平洋系群) ②

■ 年齢別資源尾数と神戸プロット

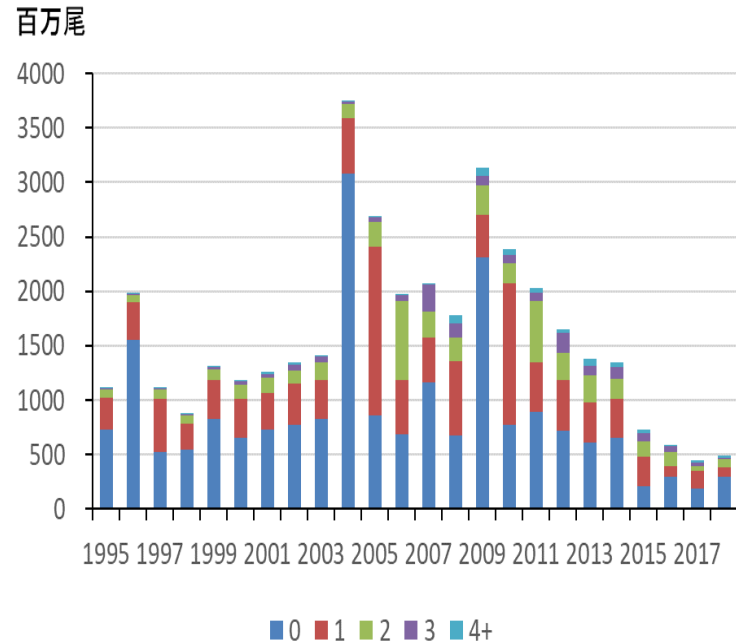


図5 年齢別資源尾数

0歳(青)、1歳(赤)を中心とする年齢構成で、資源評価期間においては2004年と2009年に卓越年級が発生した。近年の加入量(0歳の資源尾数)は低水準にある。

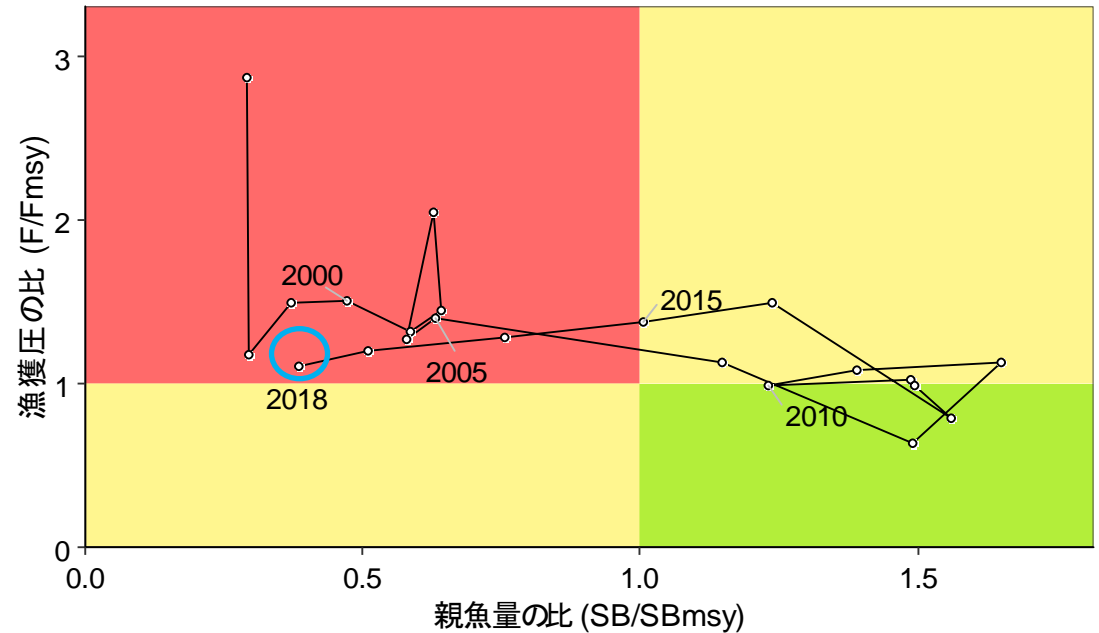


図6 神戸プロット(神戸チャート: 3年移動平均値)

漁獲圧(F)は、2006年漁期以前および2014年漁期以降、最大持続生産量を実現する漁獲圧(Fmsy)を上回っている。親魚量は、2005年漁期以前および2016年漁期以降、最大持続生産量を実現する親魚量(SBmsy)を下回っている。

ゴマサバ (太平洋系群) ③

■ 管理基準値案と漁獲管理規則案等

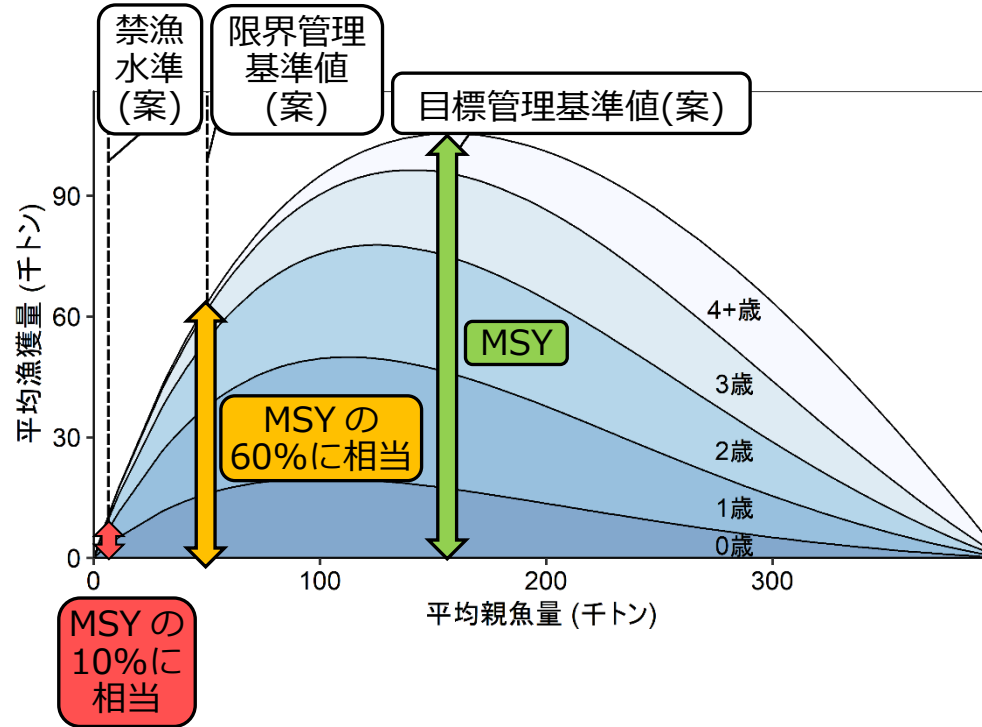


図7 MSYと管理基準値案の関係

本系群の目標管理基準値としては最大持続生産量（MSY：105千トン）が得られる親魚量（SB_{msy}）を、限界管理基準値としてはMSYの60%の漁獲量が得られる親魚量を、禁漁水準としてはMSYの10%の漁獲量が得られる親魚量を提案する。

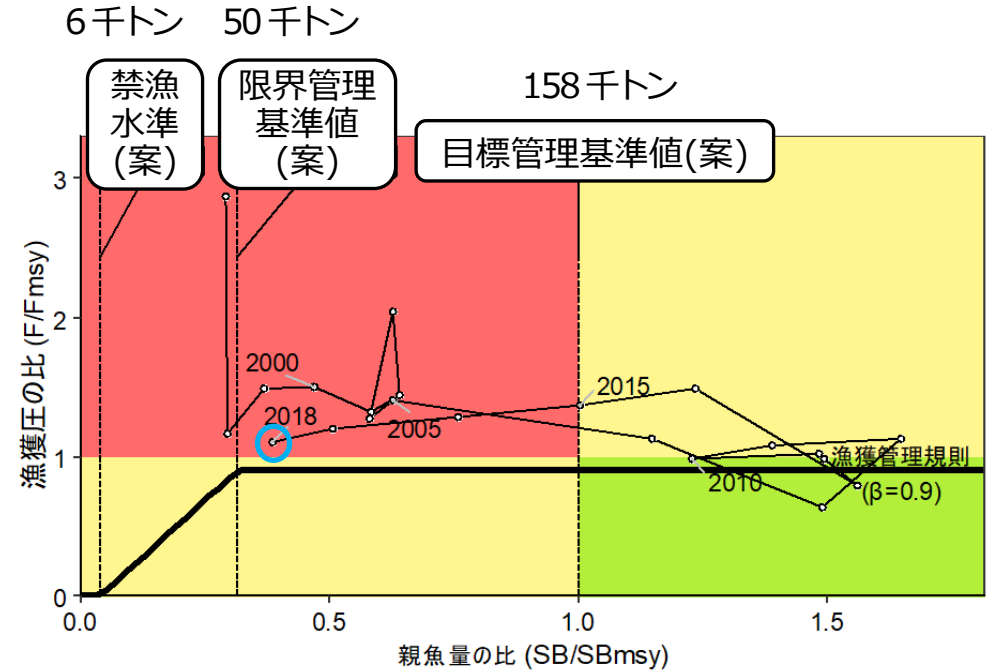


図8 漁獲管理規則案

2018年漁期の親魚量は、目標管理基準値案を下回るが、限界管理基準値案は上回っている。βを0.9とした場合の漁獲管理規則案（※）を黒い太線で示す。2018年漁期のプロット（点）は黒い太線よりも上側に位置するため、2018年漁期のFは当該漁獲管理規則案に基づくFを上回っている。

※βや漁獲管理規則案については「検討結果の読み方」を参照

ゴマサバ (太平洋系群) ④

■ 将来の親魚量と漁獲量の予測

漁獲管理規則案（現状の漁獲圧は参考）に基づいて算出

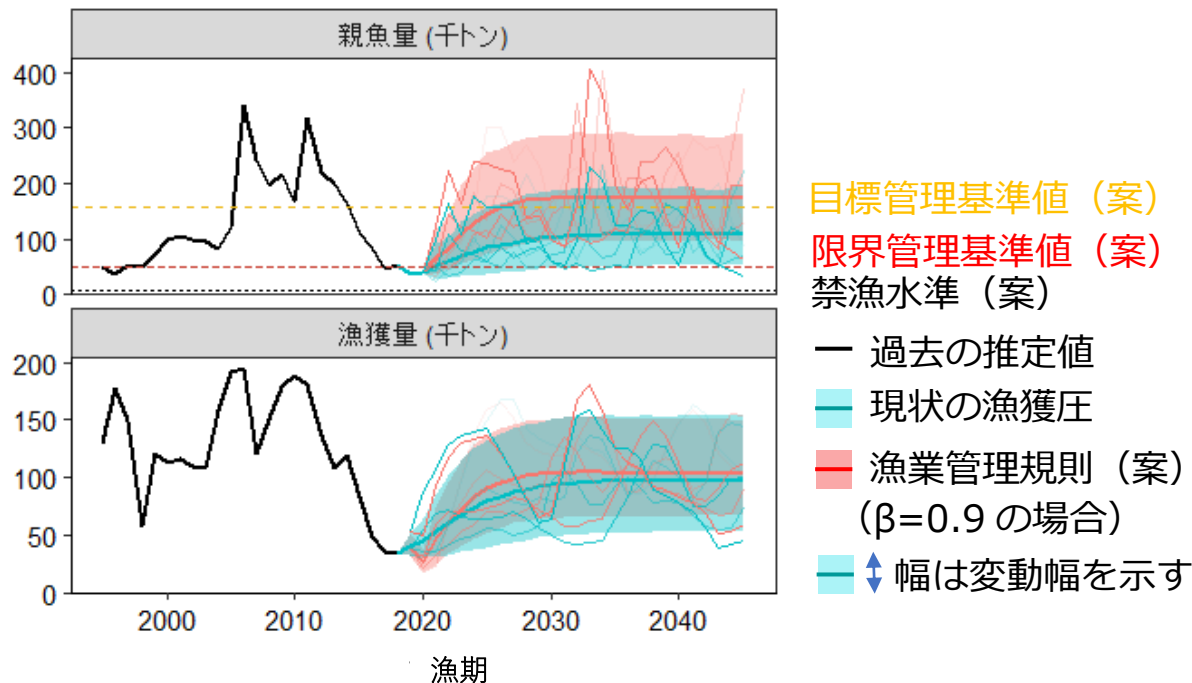


図9 親魚量と漁獲量の将来予測

β を0.9とした場合、親魚量は漁業管理規則案導入後に速やかに増加し、2025年漁期には目標管理基準値案に近い水準まで回復する。

$\beta=0.9$ 以下の漁獲管理規則案であれば、10年後に目標管理基準値案を50%以上の確率で上回る（表）。

表 管理基準値案を上回る確率と2020年漁期の漁獲量

β	10年後（2030年漁期）に親魚量が限界管理基準値（案）を上回る確率（%）	10年後（2030年漁期）に親魚量が目標管理基準値（案）を上回る確率（%）	2020年漁期の漁獲量（千トン）
1	100%	41%	29
0.9	100%	54%	27
0.8	100%	67%	24
0.7	100%	79%	21
0.6	100%	88%	19
0.5	100%	95%	16
0.4	100%	98%	13
0.3	100%	100%	10
0.2	100%	100%	7
0.1	100%	100%	3
0	100%	100%	0

シミュレーションによる確率や将来の漁獲量は、資源評価により今後もアップデートされます。